



# VOICE

読者のページ

2024年11月号(52巻11号)へ寄せられた  
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

## 特集

### この検査データから考えられる疾患は？ 微生物検査編

- 教科書にもよく載っている代表的な細菌について、実際の症例、経過がわかりやすくまとまっていた。同定のポイントや薬の選定も経過に沿って解説され、理解しやすい構成でした。 **ヒョウゴノヒト (兵庫県)**
- 成書は微生物の生化学的性状などから検査データの予測に遡る解説が多い印象ですが、本特集は「血液検査→起炎菌を予測しつつ微生物検査」という実務的なフローで、わかりやすかったです。 **HY (福岡県)**
- 一問一答形式は知識の再確認につながり、勉強になります。写真がきれいでドクターの診断と検査結果と一緒に読めて大変わかりやすいです。 **さんきち (山口県)**

## これは便利！

### 臨床検査技師のX(旧 Twitter)活用術

- SNS活用は勉強になりました。交流と情報収集ができて便利な半面、その情報が正しいかを見分けることが大切だと思いました。 **RK (埼玉県)**
- Xの使い方は小田嶋先生のおっしゃる通りです。海外の専門医は日本と比べてSNSへの情報発信が活発で、新しい知見を得やすいです。 **MT (京都府)**
- 某認定試験受験(勉強)にあたり、Xを含めYouTube、Note+などがとても役に立ちました。SNSはアカウントを作成し、見るだけでも多くの情報を入手できます。なかには記事にもあったように怪しげな情報もありますが、励みにもなりました。 **HY (福岡県)**

## MT Seminar

### 尿沈渣検査と尿細胞診の合わせ技 —高異型度尿路上皮癌を見逃さないための検査—

- 尿沈渣検査はルーチンで必須ですが、卒後は知識が向上しにくい分野だと感じます。細胞診とともに取り上げてもらい、理解が深まりました。 **あっきー (千葉県)**
- 当院でも尿沈渣で異型細胞を見つけたことから臨床医に連絡が行き、細胞診の提出や診断、治療につながった事例があります。細菌技師、病理技師ともに知識を身に付ける必要がある内容だと感じます。 **KT (東京都)**
- 尿沈渣検査・尿細胞診共用検査結果報告書が機能すれば、患者利益につながると思います。いきなり臨床医や病理医を巻き込むより、検査技師間の情報共有として使い始めるとよいかもかもしれません。 **MT (京都府)**

## 基礎講座

### 血液塗抹標本における悪性所見の見つけ方

- 当院は目視を外注していますが、ドクターから依頼がある場合や数値的に危険だと思われる場合は、院内で染色しています。染色は得意な半面、細胞の分類は不得手なので、本記事の表や写真を参考に、各細胞の特徴を押さえておきたいです。 **さんきち (山口県)**
- 「表2 血液細胞のおもな形態異常と代表的な疾患・病態」が大変よくまとまっていたので、血液像の顕微鏡前に貼り出しました。 **コウベノサウナー (兵庫県)**
- 当院ではマルクを実施していませんが、末梢血の標本でも血液細胞形態の異常を見逃さないようにしたいと思いました。 **KN (大阪府)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはWebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

